

肢体不自由教育における『主体的・対話的で深い学び』の視点での授業づくり ～肢体不自由特別支援学級の実践～

現状と課題

石狩管内の肢体不自由特別支援学級の先生へ『主体的・対話的で深い学び』に関するアンケートを実施。

Q 『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善において、難しさを感じるのはどのような場面ですか。



肢体不自由特別支援学級において、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、子ども同士の協働場面を設定するなど、授業改善に必要な視点や手立てを明らかにする必要があります。



要覧「特別支援教育」（平成29年度版）道教委

＜集計の結果＞「子ども同士の協働場面を設定すること」に課題を感じている先生が最も多かった。

研究の内容と方法

授業研究

江別市立上江別小学校

学年：小学校第1学年（肢体不自由特別支援学級）
単元名：体育「ボール運動」
交流及び共同学習
概要：自分が目標とする体の動きが他の児童に認められて、チームの一員として参加することで、意欲的に学習活動へ取り組めるようになった。

【対象児童生徒の実態】

児童生徒 (Student)		性別	年齢
手指の操作	頭部	男	5歳
粗大運動	口舌	男	5歳
	石手	男	5歳
コミュニケーション	石足	男	5歳
	石足	男	5歳

研究協力校

＜参考＞
平成26年度特セン重点研究の成果であるSAAPeCアセスメントシートを使用
青～自由に使える
紫～困難有

事例から「手立ての工夫」

「主体的な学び」

- 本児童の意思を教師が確認する
- 体の動きを本児童が理解できる具体的な言葉と結びつけて伝える

「対話的な学び」

- 教師が、通常の学級の子どもたちも含め、全員に対して動きを実況したり、ほめたりすることで、児童同士の会話を増やす

「深い学び」

- 作戦会議で動きの是非を教師と一緒に考え、取り組み方を決定する

- 体の動きの困難さ～活動の制限

➡ 「できない」（意欲の低下）

- 手立てを工夫して一緒に参加する

➡ 「できる！」（意欲の向上）

- 日常の活動で仲間意識を少しずつ高める
➡ 「違うことが普通」（体育の取り組み方に变化！）

- 本児童～他の児童と比べて、自信を失うことがなくなった。
- 他の児童～一緒に運動できるように工夫するようになった。

【成果】

- ・ 肢体不自由の児童生徒における「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を整理することで、児童生徒が意欲的に参加できるようになるために必要な手立てを確認することができた。

【課題】

- ・ 道内の特別支援学級の実践を積極的に情報収集し、一人一人の障がいの状態や心情に応じた課題の設定や言葉かけなど、適切な手立ての工夫について、全道へ周知を図る必要がある。